

風土記の丘の花だより²⁰⁴

今、そしてこれから見られる植物(2023年9月23日)

ヒガンバナやハギの花が咲き出して、気のせいかな、少し秋めいてきたように感じます。でも日中は30度ほどの猛暑です。まだまだ油断することなく熱中症対策を怠らないように気を付けましょう。ハギはもう少し花数が増えてから紹介しましょう。



秋の七草の一つフジバカマが満開を迎えています。それととてもよく似たヒヨドリバナも咲いているので、それを比較しながら二つまとめて紹介することにします。

上がフジバカマで、下がヒヨドリバナです。と言っても、こんな素人写真だけで分かるはずありませんね。

まず、花です。フジバカマ(以降フ)の方が少しだけ紫色があったところがありますが、ヒヨドリバナ(以降ヒ)はほぼ真っ白です。(これには個体差もあります)

次は葉です。フは小さな葉を除いてだいたい3つに分かれますが、ヒは分かれません。

続いて茎ですが、フは毛が少ないか、ほぼ無毛ですが、ヒには多くの毛が生えています。これはルーペがあればよく分かります。

更に生え方です。フは広がって何株もまとまって生えますが、ヒは一株ずつ生えます。それは、フには横に伸びる地下茎があってどんどん生え広がるからです。どっちらでもエエと言えればそれまでですが、分かったら嬉しいですね。柳川家の北通路沿いに大きなピンク色の花が咲いています。フヨウの花です。アオイ科の植物で、とても大きくて目を引きます。毎年根元から刈り込んでも、翌年には大きく茂って花を咲かせるととても丈夫な木です。一日花ですが、次から次へと毎日花が咲きます。ところが、この木には必ずといっていいほどケムシが付きます。色は黄緑でとても美しいのですが、一般的にあまり好かれていないようです。フタトガリアオイガというガの幼虫です。花といっしょにその虫も愛でてやってください。



足もとでピンクの花を見かけませんか？サフランモドキの花です。でも写真の花はよく見かけるのとチョット違いますよ。おわかりでしょうか？それは、花びらが8枚ということです。牧野富太郎も「・・紅色ノ愛ラシキ一花ヲ着ク。花蓋ハ六片二分レテ平開シ・・」と記しています。このようにサフランモドキの花びらの多くは6枚なのです。でも探せば、いろいろな枚数の花があります。四つ葉のクローバーを探すみたいに探してみてください。 松下